

嫁へ行く

つもりじゃ



なかつた

岡田育



嫁へ行く

つもりじゃ

なかった

岡田育

大和書房

岡田育

(@okadaic)

編集者・文筆家。1980年東京都生まれ。

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。

出版社勤務を経て、

WEB媒体を中心に執筆活動始める。

情報番組のコメンテーターなども務め、

同人サークル「久谷女子」のメンバーとしても活動中。

著書に『ハジの多い人生』(新書館)。

<http://okadaic.net/>

嫁^{よめ}へ行く^いつもりじゃなかった

二〇一四年九月一五日 第一刷発行

著者

おかだ いく
岡田育

発行者

佐藤靖

発行所

だいわ
大和書房

東京都文京区関口一・三三・四
電話：〇三・三二〇三・四五一一

装画

田中相

装幀

木庭貴信 (オクターヴ)

本文印刷

厚徳社

カバー印刷

歩プロセス

製本

ナショナル製本

©2014 IKU Okada, Printed in Japan

ISBN978-4-479-39264-4

<http://www.daiwashobo.co.jp>

乱丁・落丁本はお取り替えます

JASRAC ㊦ 1411006-401

嫁へ行くつもりじゃなかった

目次

第一部

嫁へ行くつもりじゃなかった

9

プロローグ——恋愛と結婚と私 11

1 報告について——いつまで新婚でいるつもり？ 22

2 恋愛について——愛がなくても結婚できます 28

3 プロポーズについて——求婚よ、土の中で待て 35

4 同居について——婚約指輪がトランクルーム 42

5 外敵について——男と女と黒い虫 49

6 改姓について——ポケットの中には名前が三つ 57

7 孤独について——寂しくないと死んじやうんだよ！ 65

8 出産について——聖家族はかげろうのように 73

9 食事について——愛とごはんと新婚旅行 81

10 趣味について——家庭内オタク格差 89

11 嫉妬について——非モテよ、さらば。 97

12 反響について——まさか僕らが 105

嫁は萌えているか？

113

プロローグ——我はいかにして三度も花嫁衣装を纏いしか 115

1 夫婦と比較——ためいきの数だけブーケを束ねた女 128

2 夫婦と仕事——個人事業主にヘッドハンティングされた女 135

3 夫婦と国際——めずらしきとつくに心おどる女 142

4 夫婦と交友——教えられた事と知りたい事がいつでも少しズレてる女 150

5 夫婦と不倫——愛妻家の君と恐妻家の僕 158

6 夫婦と距離——君のいないところにいて歌う僕 166

7 夫婦と宗教——信じる者が救われても、信じた者を信じられなかった女 174

8 夫婦と金銭——その財布を開くのは私、あの金を払うのはあなた 182

9 夫婦と普通——違いがわかる男、上質を知る人、見て見ぬフリをする我々 190

10 夫婦と性愛——不躰なモテない質問、美しく燃える銛の女 198

11 夫婦と定義——したいことができるように、できることをする女 206

12 夫婦と隣人——いつか誰かに聞いた結婚の話を、別の誰かに話す今 213

嫁へ行くつもりじゃなかった

目次

第一部

嫁へ行くつもりじゃなかった

9

プロローグ——恋愛と結婚と私 11

1 報告について——いつまで新婚でいるつもり？ 22

2 恋愛について——愛がなくても結婚できます 28

3 プロポーズについて——求婚よ、土の中で待て 35

4 同居について——婚約指輪がトランクルーム 42

5 外敵について——男と女と黒い虫 49

6 改姓について——ポケットの中には名前が三つ 57

7 孤独について——寂しくないと死んじやうんだよ！ 65

8 出産について——聖家族はかげろうのように 73

9 食事について——愛とごはんと新婚旅行 81

10 趣味について——家庭内オタク格差 89

11 嫉妬について——非モテよ、さらば。 97

12 反響について——まさか僕らが 105

嫁は萌えているか？

113

プロローグ——我はいかにして三度も花嫁衣装を纏いしか 115

1 夫婦と比較——ためいきの数だけブーケを束ねた女 128

2 夫婦と仕事——個人事業主にヘッドハンティングされた女 135

3 夫婦と国際——めずらしきとつくに心おどる女 142

4 夫婦と交友——教えられた事と知りたい事がいつでも少しズレてる女 150

5 夫婦と不倫——愛妻家の君と恐妻家の僕 158

6 夫婦と距離——君のいないところにいて歌う僕 166

7 夫婦と宗教——信じる者が救われても、信じた者を信じられなかった女 174

8 夫婦と金銭——その財布を開くのは私、あの金を払うのはあなた 182

9 夫婦と普通——違いがわかる男、上質を知る人、見て見ぬフリをする我々 190

10 夫婦と性愛——不躰なモテない質問、美しく燃える銛の女 198

11 夫婦と定義——したいことができるように、できることをする女 206

12 夫婦と隣人——いつか誰かに聞いた結婚の話を、別の誰かに話す今 213

*本書は、二〇一三年十月から二〇一四年七月にかけて「マイナビニュース」で連載された「嫁へ行くつもりじゃなかった——私の新婚日記」「嫁は萌えているか?——いつか誰かに聞いた結婚の話」をまとめたものです。第一部プロローグは「WEBと結婚と私」(同人誌『久谷女子便り』第6号)を改題して再録、第二部プロローグ、まえがき、あとがきは書き下ろしです。単行本化にあたり、全編を大幅に加筆修正いたしました。

嫁へ行くつもりじゃなかった

まえがき

春に婚姻届を出し、夏にささやかなパーティーをして、半年暮らした新居にも慣れ、これでようやくすべてが片付いたな、と思っていた二〇一三年の秋のこと。「新婚生活について書きませんか？」という編集者の一言で、思い知らされた。人生の大転換は鎮まって日常となり、私の「結婚」は、終わったのではなく、始まったのだった。

こんなに正直なタイトルをつけておいても、うっかり間違えて手に取られてしまう可能性も高い。あらためて書いておこう。これは結婚指南の本ではない。必ず、理想の、幸福な、後悔しない結婚をするための、マニュアルや教科書になるという性質の本ではない。素敵な花婿と出会うための、掟おきてや秘訣や裏技が隠されているわけでもない。良妻賢母になるコツも、たぶんあんまり書かれていない。

「ずっと結婚しないで生きていくのだろうと思っていた人間が、もののはずみで結婚してから書いた本」。ただそれだけのものだ。

かつて私は、結婚なんかしたくない、と思っていた。一方で、結婚したくてたまらなかった時期もあった。三十歳を過ぎた辺りで、まあ、しないならしないでもいいや、と悟りの境地に至った。けれども、来た球を打つようにして、結婚した。いざ自分が既婚者になってみると、独身時代にぐるぐる考え、一応は結論も出していたはずの、まったく同じ人生の諸問題について、また別の角度から考え直す羽目になった。独身の人も、婚活中の人も、配偶者がいる人も、離婚した人も、ひよっとするとみんな同じことを悩み続けていて、終わりはないのかもしれない……と思うようにもなった。

「結婚しないと思っていた人間が、してみたら、こんなことを考えるようになった」という本である。海へ出るつもりはなかったけれど、どうせ乗りかかった船ならば、出たとこ勝負、変化を楽しんだもの勝ち。そんな価値観をもって、「いろいろあるけど、結婚してみてもよかったな」と思いながら書いた本でもある。何が起るか分からないから、人生は面白い。

第一部

嫁へ行くつもりじゃなかった

プロローグ——恋愛と結婚と私

二十代の私は、己おのれの生き様を表現するために、「人生ソロ活動」という言葉をよく使っていた。たとえば「岡田さん、そろそろ結婚しないの？」と訊かれたときに、「いやー、しようにも相手がいなくて……」などと曖昧に答えると、話の続きがあれこれややこしくなる。「バンド組むだけが音楽活動じゃないんで。俺は、俺の音楽がそのままで世界にどれだけ通用するか、まだまだ模索してみたいんで」とでも答えておけば、回答や話の続きというより、本人そのものがややこしいのだと理解してもらえろ。

そんな私が、このたびバンドを組むことになった。「人生ソロ活動」同士でセルフプロデュースも手がける、デュオユニットである。区役所に婚姻届を提出して無期限の専属契約を結び、お互いに引き続きソロでも頑張ろうぜ、と約束した。夫唱婦随とハモって歌うのは苦手だが、ユニゾンはなかなか悪くないと思う。見詰め合うのではなく、それぞれ自分の世界に耽ふけりながら、二人して同じ方向を見つめている。イメージは、V2